



第61回男子・第55回女子プロボウラー資格取得テスト

男女各14名、計28名がプロライセンスを取得



▲女子合格者。前列左から近藤、石田、金子、河村、中野、緒方妹、溝口、後列左から大熊、奈良輪、宮入、岩淵、緒方姉、森、新倉の14名(©JPBA)

▲男子合格者。前列左から藤永、内藤慎、宮澤、斎藤、中野(武本)、木村、葛原、後列左から森岡、小野、内藤広、石田、前田、村上、太田の14名(©JPBA)

今年度のプロテスト(第61回男子・第55回女子)は第1次・第2次の実技、第3次の筆記試験・面接等を経て男女各14名、計28名が合格。5月19日にライセンスが交付された。

☆

第2次実技テストは、1次(前号既報)を突破した40名の受験生(男子26、女子14)に1次免除者14名(男子9、女子5)が加わり、4月25・26日に牧野松園ボウル、5月15・16日に東京ポートボウルにて実施された。

合格者は別表のとおりで、最年少合格者は男子16歳、女子17歳、同最年長は男子41歳、女子38歳。1次よりもコンディションの難度が上がったことで全体のアベレージは下がり、男子の合格率は42.8%にとどまった(女子は

73.6%)。

さらに翌17日から3日間、東京ポートボウルにて行われた3次テストでは男女各1名(いずれも高校生)が不合格に。両名には今秋に追試の機会が与えられるが、現時点でライセンス交付を受けたのは、1次・2次ともに実技免除の女子・近藤菜帆を加え、男女各14名という結果となった。

一昨年4月にJBCの競技者規程が改定され、プロ活動との掛け持ちが可能となったため、今年も新旧ナショナルチーム勢をはじめとするJBCの実力者たちが多数受験。女子は石田万音、中野麻希、男子では藤永北斗、宮澤拓哉、斎藤祐太らが順当に合格を勝ちとった。石田、中野、宮澤は今後もJBCとの両立を目指し、藤永、斎藤はいったん退

会して当面プロ活動に専念するという。

合格者の詳細なプロフィールは次号にて掲載。なお、女子の近藤とトップ合格の石田は、スポンサー推薦枠で出場の金子萌夏とともにGlicoセブン

ティーンアイス杯で、男子は14名全員がシーズントライアル・スプリングシリーズで、すでに公式戦デビューを果たしている。



▲4年前から大阪でプロショップ「ボウラーズ サポートドリーム」を営む元ナショナルチームメンバーの中野(武本)真明・麻希夫妻は「プロのライセンスを持つことで、お客様に伝える知識も増える」と受験を決意し、そろって最年長の合格者に



▲姉妹そろって合格の緒方美空(左)・彩音はアマ時代からチャレンジマッチに引っ張りだこの人気者。一緒にボウリングを始めた幼少期から姫路麗の指導を受けている2人のボウリングは、小柄ながらパワフルでダイナミックだ



▲1次・2次ともに実技免除の近藤菜帆は、3次の筆記試験をトップでクリアしてガッツポーズ。「地元でもバカで有名なので、正直不安でした(笑)」



▲女子トップ合格の石田万音(中)。「師匠の中谷(優子)プロと平岡(勇人)プロは周りの方々からすごく応援されていて、トーナメントで戦っている姿をカッコいいと思って見てきた。自分もそんなプロになりたい」。師匠夫妻は2次最終日、愛弟子の健闘を会場の外から見守った

第2次実技テスト合格者成績

Table with columns: 順位, 氏名(期別), 登録地, 利腕, スコア, アベレージ. Includes sub-tables for women (48G) and men (60G).



ボウリングは障害の有無を問わず楽しめるスポーツ

Vol.3 report

山下 知且

当時JBC事業部長であった故・松澤勇さんから誘われて、一般社団法人全日本視覚障害者ボウリング協会(BBCJ)のお手伝いに参加してから、もう10年以上が経過しました。

一度体験をしてみようということになり、「180くらいは出せると思います」と青松利明会長に豪語した私でしたが、アイシェード、そしてピンポッター(残りピンなどの情報をくれるスタッフ)をつけてもらい投げたところ、なんと1ゲームで16点。投げた途端にガターに落

ち、それが左右どちらのガターかもわからない。ブラインドボウラーの凄さとその難しさを、身を持って感じました。

青松会長が「よく1ゲーム投げ切りましたね」と優しくおっしゃってくださったことを、今

でもよく覚えています。視覚に頼らず1ゲームを投げ切れることは、とても大変なことなのだ教わりました。

国際視覚障害者スポーツ連盟(IBSA)ワールドゲームズは、英国・バーミンガムで本年8月に開催され、70以上の国と地域から1000人以上が参加します。そのアジア予選(IBSAアジア選手権大会)が、5月22日から24日まで香港にて行われ、日本は金2、銀1、銅1のメダルを獲得し、6つの出場枠を得ました。今日は5月24日、その香港にてこの原稿の筆を取っています。

またアジアボウリン



▲日本で視覚障害者ボウリングの第一人者だった森寛樹選手(今年1月に逝去)の在りし日の勇姿

リートと同じように、国や企業から給料をもらって生活している「障害を持ったフルタイムボウラー」も少なくありません。

昨年10月、BBCJ全日本選手権で初めて採用されたインクルーシブチーム戦では、ブラインドボウラーと健常者ナショナルチームメンバーとがチームとなって競技をし、大変盛り上がりしました。

ボウリングは老若男女、障害の有無を問わず楽しめる素敵なスポーツですね。



やました・ともかつ 1982年12月5日生まれ、長崎県出身。2000年～2011年ナショナルチーム在籍。長崎県スポーツ協会職員。JBC国際委員会委員、長崎県連常任理事。2022年からIBFアスリート委員



▲IBSAアジア選手権大会で4個のメダルを獲得、8月のワールドゲームズへの6つの出場枠を確保した